

平成20年度の自動車部品工業の経営動向

(社) 日本自動車部品工業会

(社) 日本自動車部品工業会は、平成20年度末での正会員企業422社のうち、上場企業で自動車部品の売上高比率が50%以上、かつ前年同期比較が可能な自動車部品専門企業82社の平成20年度の経営動向を各社の連結決算短信(※連結決算を行っていない企業は単独決算短信)により集計・分析した。

<自動車メーカーの状況>

平成20年度の日本経済は、前半から原油・原材料価格の高騰やそれに伴う諸物価の上昇、さらには輸出の鈍化等により景気が低迷し、さらに米国でのサブプライムローン問題に始まった景気後退による影響も大きく受けることとなった。

さらに9月のリーマンショック以降、100年に1度とも言われる全世界的な不況により、先進諸国のみならず、新興国・資源国など全ての地域で景気の大幅な減速があり、それまで成長を続けてきたアジア諸国等でも大幅な減退に陥った。

このような中で、平成20年度の自動車業界の状況についてみると、国内自動車需要は470万台と前年度に比べて△11.6%の減少となり、3年連続で前年を下回る結果となった。比較的堅調であった軽自動車についても前年度比△4.1%と減少に転じ、更に小型乗用車も引き続き大きく減少した。またトラックについても大きく需要を減らし、前年度比△15.0%の77万台に留まった。

完成車輸出も、主に北米地域向けでの大幅な減少があり、さらにはアジア・中近東を始めとする新興地域でも世界不況の影響により大きく減少、一転して前年度比△17.2%となった。この結果、国内生産としては7年振りに前年割れとなり、999万台と1,000万台を下回る結果となった。

二輪車についても、原付第二種のみは僅かに前年度を上回ったものの、それ以外は全てのクラスで不振が続き、3年連続で前年を下回った。

本年3月の自動車工業会の平成21年度予測では、所得の減少による消費マインドの冷え込みや、企業収益の急激かつ大幅な悪化により国内需要は更に減少し、430万台(前年度比△8.0%)に留まるとされている。環境対応車への優遇税制等の施策による今後の需要動向に期待したい。

<部品メーカーの状況>

このような中で、上記自動車部品メーカー82社の平成20年度の業績は、売上・利益ともに過去最高を記録した前年度から大幅に減少し、特に当期利益については全体で赤字となり、以下の通りとなった。

	19年度	20年度	前年度比
売上高	22兆4924億円	18兆7040億円	-16.8%
営業利益	1兆4505億円	1211億円	-91.6%
売上高営業利益率	6.4%	0.6%	-
経常利益	1兆4533億円	668億円	-95.4%
売上高経常利益率	6.5%	0.4%	-
当期利益	8463億円	-4381億円	-
売上高当期利益率	3.8%	-	-

売上高は、中間期までは北米市場の冷え込みはあったものの、アジア等新興地域での自動車生産拡大を受け、輸出の増加や現地生産拡大への対応により前年同期比で微増であったが、9月のリーマンショック以降は金融危機・不信により一気に世界同時不況にまで拡大した。それを受けて、自動車販売も全世界的に減少したため、部品各社の売上も全地域でマイナスに転じ、全体で△16.8%も落ち込んだ。これを、下期だけで見ると、前年同期比△33.5%となる。特に、第4四半期での自動車各社の大幅な生産調整は、部品メーカーの売上にも大きく影響を与えることとなった。

利益に関しては、各社で経費削減のための合理化や生産体制の再編等様々な対応で聖域なきコスト削減を行っているとはいうものの、売上があまりにも急激に減少したため、固定費を含む売上原価と販管費の低減が追従出来ていないこともあり△90%を超える大幅な減益となった。

特に、年度後半で予測に対して一時的に円安傾向となったとはいえ、為替差損に代表される営業外費用、投資有価証券の評価損等の特別損失の大幅な増加、更には土地・設備の減損損失の計上により、税引き後の当期利益では全体で4,300億円を超える赤字となった。

売上・利益ともに前年度を下回るのは、1998年度以来10年振りのことであるが、この時は前年97年度からゆるやかに景気が減速した時期であり今回のように急激ではなかったこと、また落ち込みの幅についても緩やかであったことから、各企業にとっては経験したことのないスピードと幅での経営悪化状況となっている。

部品メーカー各社は、これまでの日系カーメーカーの拡大基調への対応のために設備投資や海外展開を急激に進めてきたこともあり、様々な面で生産能力が過剰となっている。20年度の「有形固定資産取得のための支出」に関しては前年度比減少に転じたが、過去の投資分の減価償却費の負担を強いられており、また年度末の資金繰り対応の結果、「借入金依存度」が急激に上がる結果となっている。

大幅な市場の回復が期待できない中で、この借入金の償還も今後の大きな課題となるため、各社の資金繰りに関しては引き続き政策面での支援もお願いしたい。

次に、地域別売上では、北中南米地域の△25.9%を筆頭に全ての地域で前年度を下回り、増収を続けてきたアジアでも△3.3%と初の減収となった。従来は、ある地域が不振でも他地域での成長によって全体の業績を伸ばしてきた構造であったが、今回の景気悪化はまさに“全世界的”であり、新興地域での業績が全体をカバーできる状況ではなくなってきている。また、会員の中には、北米デトロイト3との取引を行っている企業もあり、今回のGM・クライスラーの経営危機が部品企業の大幅な業績の悪化に繋がったことも否めない。

地域別の営業利益では、日本・北中南米では赤字の結果となったが、アジアでは前年度から大幅に減少したものの、利益は確保できており、全体での収益をアジア1地区でカバーしている状況となっている。しかしながら、成長という観点ではアジアでの景気減速も顕著になってきているため、世界的に需要が回復するためには、やはり北米市場の回復が必要と考えられる。

平成21年度通期の各社の業績見通に関して、景気の底は打ったという一部の見方はあるものの、需要の本格的な回復にはまだ時間が掛るとの予測が大勢を占めており、特に上半期では非常に厳しい経営を強いられる。年度後半では若干持ち直す予測があるものの、売上では20年度を更に下回る内容であり、今回集計した全企業が減収の予測となっている。利益については半数以上の企業で全ての項目において赤字の予測となっており、全体でも赤字の予測となっている。

このような中、今後ともコスト競争の激化は避けられないと考えられるため、各社引き続き設備投資の抑制や、更なる固定費の削減等により、需要に見合った規模・フレキシブルな生産体制への転換を加速させることが必要となろうし、事業領域・地域・品目の選択と集中も求められる。一方で、今後の回復期に向けての技術力や付加価値の向上による経営基盤の強化も重要となってくる。

いずれにしろ、これまでの輸出依存型ではなく、内需の拡大等も含め、政府による景気刺激対策の継続、拡大を今後ともお願いしたい。

自動車部品工業の経営動向

—主要上場企業82社の平成20年度の連結決算状況—

1. 対象企業

平成20年4月から平成21年3月までに決算期のある正会員上場企業で、売上高に占める自動車部品比率が50%以上の企業82社を対象とした。

2. 経営分析の方法

各社の連結決算短信（連結決算を行っていない企業は単独決算短信）による。

3. 決算状況

(1) 全体集計結果

	19年度	20年度	前年度比
売上高	22兆4924億円	18兆7040億円	-16.8%
営業利益	1兆4505億円	1211億円	-91.6%
売上高営業利益率	6.4%	0.6%	-
経常利益	1兆4533億円	668億円	-95.4%
売上高経常利益率	6.5%	0.4%	-
当期利益	8463億円	-4381億円	-
売上高当期利益率	3.8%	-	-

	19年度			20年度		
	増加	減少	合計	増加	減少	合計
売上高	72社	10社	82社	4社	78社	82社
営業利益	49社(1)	33社(3)	82社(4)	4社(1)	78社(28)	82社(29)
経常利益	49社(0)	33社(3)	82社(3)	5社(1)	77社(36)	82社(37)
当期利益	43社(0)	39社(8)	82社(8)	5社(1)	77社(48)	82社(49)

※赤字幅が縮小した場合は「増加」、赤字幅が拡大した場合は「減少」に含める

※（ ）内は赤字計上会社数

① 売上高と営業利益の動向

		営業利益		
		増益	減益	計
売上高	増収	3社 (3.7%)	1社 (1.2%)	4社 (4.9%)
	減収	1社 (1.2%)	77社 (93.9%)	78社 (95.1%)
	計	4社 (4.9%)	78社 (95.1%)	82社 (100.0%)

() は構成比

② 売上高と経常利益の動向

		経常利益		
		増益	減益	計
売上高	増収	3社 (3.7%)	1社 (1.2%)	4社 (4.9%)
	減収	2社 (2.4%)	76社 (92.7%)	78社 (95.1%)
	計	5社 (6.1%)	77社 (93.9%)	82社 (100.0%)

() は構成比

③ 売上高と当期利益の動向

		当期利益		
		増益	減益	計
売上高	増収	3社 (3.7%)	1社 (1.2%)	4社 (4.9%)
	減収	2社 (2.4%)	76社 (92.7%)	78社 (95.1%)
	計	5社 (6.1%)	77社 (93.9%)	82社 (100.0%)

() は構成比

(2) 収益構造

科目	19年度		20年度		
	金額(億円)	構成比	金額(億円)	前年度比	構成比
売上高	224,924	100.0%	187,040	-16.8%	100.0%
売上原価	190,199	84.6%	166,960	-12.2%	89.3%
販売費及び一般管理費	20,919	9.0%	18,868	-6.7%	10.1%
営業利益	14,505	6.4%	1,211	-91.6%	0.6%
営業外収益	1,913	0.9%	1,692	-11.6%	0.9%
営業外費用	1,885	0.8%	2,235	+18.6%	1.2%
経常利益	14,533	6.5%	668	-95.4%	0.4%
特別利益	831	0.4%	346	-58.4%	0.2%
特別損失	1,056	0.5%	3,078	+191.5%	1.6%
税金等調整前当期利益	14,308	6.4%	-2,064	—	-7.5%
当期利益	8,463	3.8%	-4,381	—	-6.1%

(3) 所在地別の売上高、利益の状況

所在地	売上高(億円) (注2)	前年度比	営業利益(億円)	前年度比	利益率	
日本	128,256	-17.6%	-2,204	—	-1.7%	
海外	北中南米	33,477	-25.9%	-261	—	-0.8%
	欧州	17,625	-19.6%	63	-89.9%	0.4%
	アジア	33,254	-3.3%	3,291	-11.8%	9.9%
	分類不可等	4,030	-23.5%	298	-35.6%	7.4%
(消去) (注3)	(29,602)	—	24	—	—	
合計 (注4)	187,040	-16.8%	1,211	-91.6%	0.6%	

(注1) 海外所在地の内訳は下記の通りである。

北中南米：カナダ、アメリカ、メキシコ、ブラジル等

欧州：イギリス、フランス、ドイツ、スペイン、イタリア、チェコ、ハンガリー等

アジア：タイ、インドネシア、フィリピン、マレーシア、シンガポール、台湾、中国、韓国、ベトナム、インド、一部オーストラリアを含む等

(注2) 海外の売上高は、各地域の連結子会社の売上高であり、たとえば日本から海外の顧客あての直接売上（子会社を経由しない場合）は、日本の売上高に計上されている。

(注3) 消去は、所在地間の内部売上高を表す。

(注4) 売上高の合計は、各社の四捨五入処理等の数値を合計しているため、表中の各所在地の売上高数値を単純に集計したとしても、表中の合計数値とは一致しない。

(4) 設備投資の動向 (設備投資と関係の深い有形固定資産取得のための支出額、減価償却費を集計)

① 有形固定資産 (一部無形固定資産を含む) 取得のための支出額

	19年度	20年度	前年度比
有形固定資産取得のための支出額(億円)	15,918	14,998	-5.8%

② 減価償却費

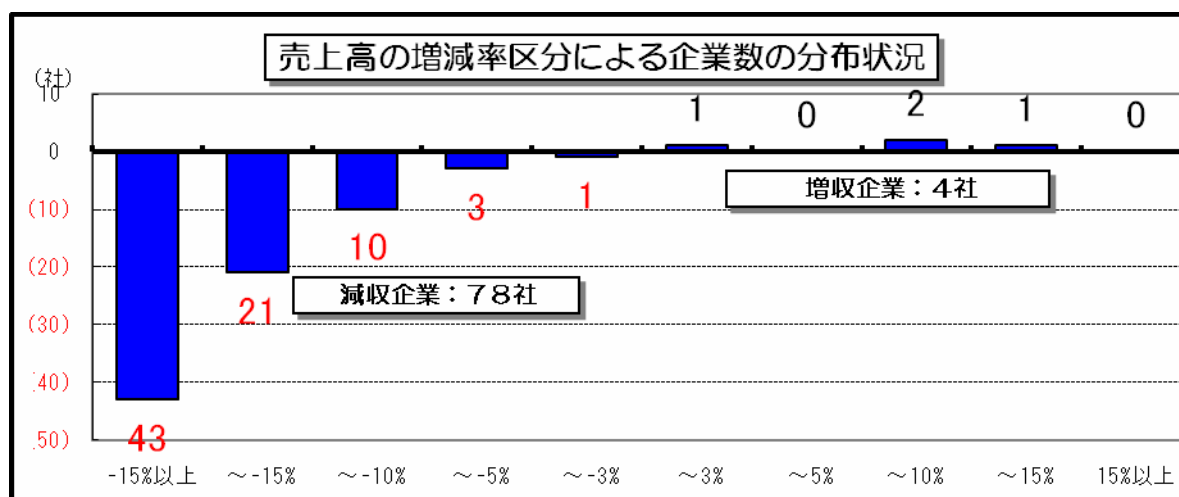
	19年度	20年度	前年度比
減価償却費(億円)	11,671	12,518	+7.3%

(5) 借入金依存率の動向 (必要な資本を、どれだけ借入金に依存しているかを集計)

	19年度	20年度	前年度比
借入金依存率 (%)	14.4%	19.7%	+5.3%

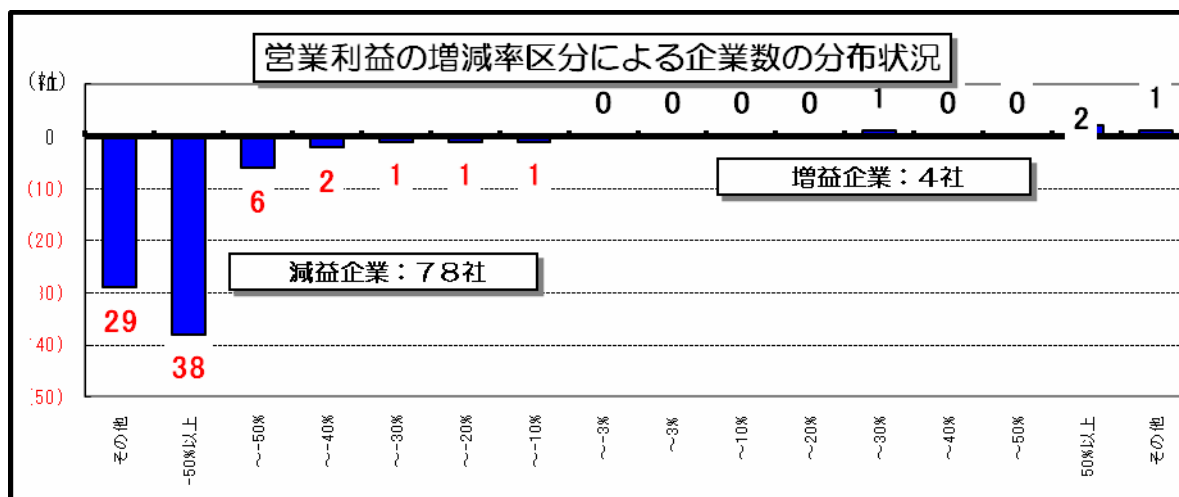
4. 分析結果

(1) 売上高の状況

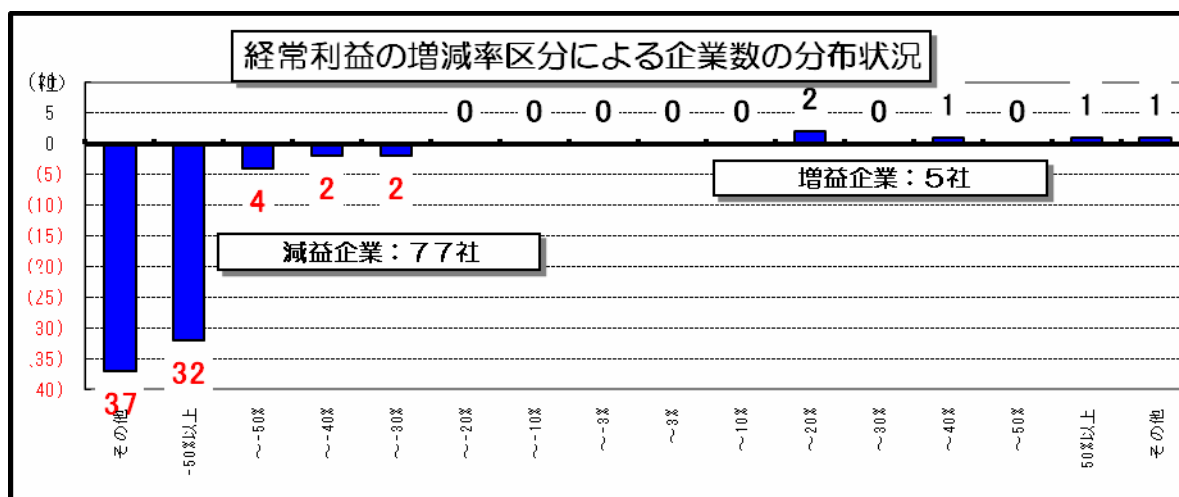


(2) 利益の状況

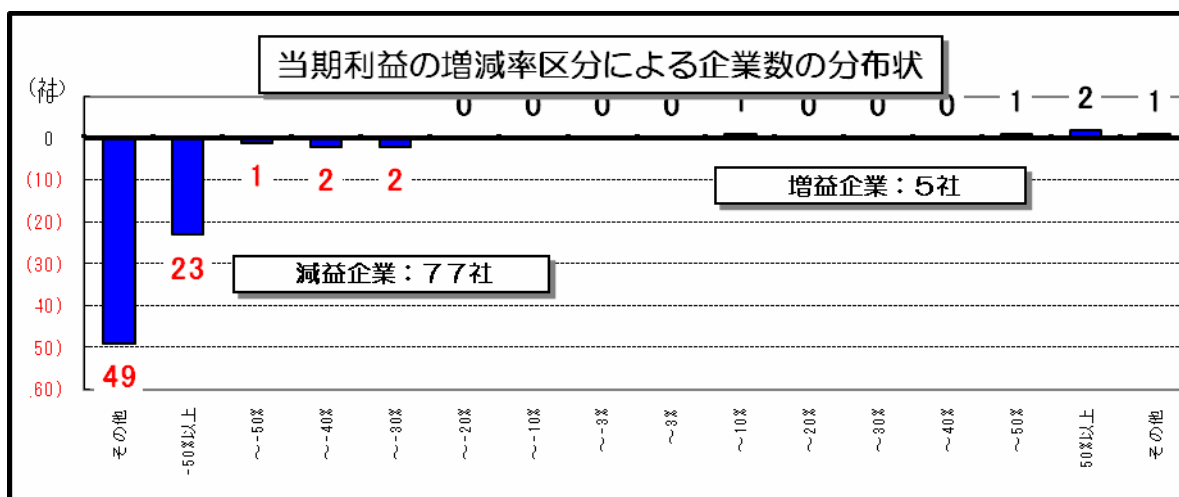
① 営業利益の状況



② 経常利益の状況



③ 当期利益の状況



5. 平成21年度の業績見通し

(1) 全体の業績見通し（対前年度比）

	20年度	21年度見通し	前年度比
売上高	18兆7040億円	14兆9961億円	-19.8%
営業利益	1211億円	-1492億円	-
売上高営業利益率	0.6%	-1.0%	-
経常利益	668億円	-1687億円	-
売上高経常利益率	0.4%	-1.1%	-
当期利益	-4381億円	-2063億円	-
売上高当期利益率	-6.1%	-1.4%	-

(2) 全体の業績動向見通し

	20年度実績			21年度見通し		
	増加	減少	合計	増加	減少	合計
売上高	4社	78社	82社	0社	82社	82社
営業利益	4社(1)	78社(28)	82社(29)	21社(6)	61社(31)	82社(37)
経常利益	5社(1)	77社(36)	82社(37)	28社(10)	54社(27)	82社(37)
当期利益	5社(1)	77社(48)	82社(49)	43社(23)	39社(20)	82社(43)

※赤字幅が減少する場合は「増加」、赤字幅が拡大する場合は「減少」に含める。

※（ ）内は赤字予測会社数

(3) 全体の業績動向見通し（売上高と経常利益の動向）

		経常利益		
		増益	減益	計
売上高	増収	0社	0社	0社
	減収	28社	54社	82社
	計	28社	54社	82社

以上

平成20年度の自動車部品工業の経営動向（四半期毎の業績推移表）

◎対象企業：平成20年10月から平成21年3月までに決算期のある正会員上場企業で、売上高に占める自動車部品比率が50%以上の企業82社を対象とし、各社の決算短信により集計した。

(百万円)

	平成19年度					平成20年度					(参考)平成21年度業績予想		
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	通期	4四半期期間	第1四半期	第2四半期	第3四半期	通期	4四半期期間	上期	下期	通期予測
売上高 (A)	5,347,132	10,846,511	16,632,598	22,492,353	5,859,755	5,495,435	10,954,654	15,531,963	18,703,996	3,172,033	6,815,029	8,181,086	14,996,115
対前年度比	11.1%	11.4%	11.0%	10.0%		2.8%	1.0%	-6.6%	-16.8%	-45.9%	-37.8%	5.6%	-19.8%
営業利益 (B)	344,057	671,759	1,091,020	1,450,450	359,430	304,612	518,907	489,311	121,138	-368,173	-338,153	188,967	-149,186
対前年度比	15.5%	19.0%	20.7%	17.1%		-11.5%	-22.8%	-55.2%	-91.6%	—	—	—	—
経常利益 (C)	379,468	700,508	1,134,922	1,453,254	318,332	347,966	570,112	484,164	66,824	-417,340	-400,577	231,828	-168,749
対前年度比	19.8%	18.6%	18.4%	12.5%		-8.3%	-18.6%	-57.3%	-95.4%	—	—	—	—
当期利益 (D)	214,914	383,281	640,519	846,259	205,740	195,774	287,570	81,569	-438,116	-519,685	-291,329	85,046	-206,283
対前年度比	19.3%	21.6%	19.0%	14.6%		-8.9%	-25.0%	-87.3%	—	—	—	—	—
営業利益率 (B) / (A)	6.4%	6.2%	6.6%	6.4%	6.1%	5.5%	4.7%	3.2%	0.6%	-11.6%	-5.0%	2.3%	-1.0%
経常利益率 (C) / (A)	7.1%	6.5%	6.8%	6.5%	5.4%	6.3%	5.2%	3.1%	0.4%	-13.2%	-5.9%	2.8%	-1.1%
当期利益率 (D) / (A)	4.0%	3.5%	3.9%	3.8%	3.5%	3.6%	2.6%	0.5%	-2.3%	-16.4%	-4.3%	1.0%	-1.4%

中間期での調査とは対象企業数が異なるため、過年度のデータについても比較が可能な企業のものに置き換えてある。従って中間期の数値とは異なるので留意されたい。